

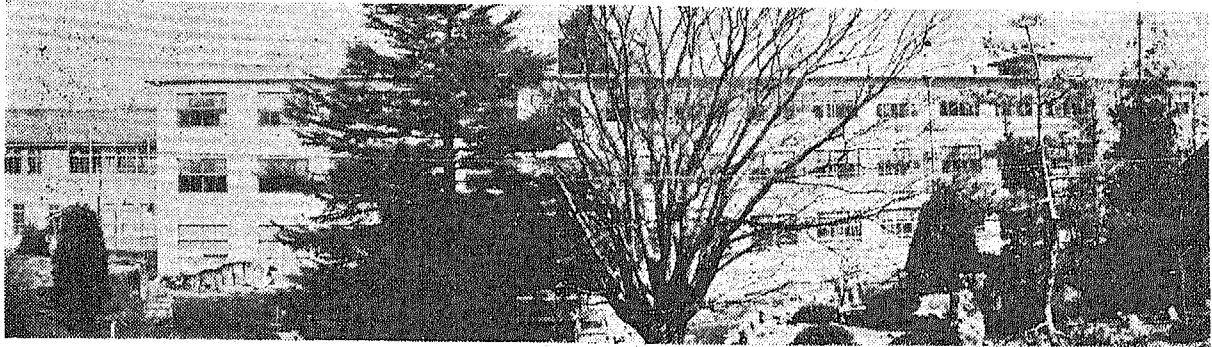
# 主 な 記 事

大学院学生を迎えるにあたって	1
第14回卒業式	2
学部長新任のご挨拶	4
支会だより	9
母校ニュース・本会記事	10
昭和41年度入学合格者	11

## 千曲会報

No. 161 昭和41年 5月20日

編集兼発行人 小林 尚一  
 発行所 社団法人千曲会  
 長野県上田市常入信州大学繊維学部内  
 振替長野 6243・東京43341  
 電話 上田(2)1215(代表)(2)1218(直通)



### 大学院学生を迎えるにあたって

信州大学繊維学部長 柳 沢 延 房

本年は本学部大学院研究科が充足して3年目を迎えることになりましたが、年毎に志願者が増しそのうちから繊維農学科2名、繊維工学科4名、繊維工業化学科8名、繊維機械学科4名、計18名の優秀な入学者を迎えたのであります。

願れば10年前には新制大学の大学院設置は時期尚早の意見さえあったのであるが、10年後の今日すでに国立新制大学工学部系に23の大学院研究科が設置されるに至ったのであります。

大学院の内容については今日まだ検討されるべき多くの問題があり、これまでは比較的少数の学生に対し、高度の専門的な教育を施し、専門的研究者の養成を目的としたのであるが、最近ではとくに理工系を中心として多くの学生が大学院に進学するようになりました。それは今日の発達した学問の水準に照して、比較的高度の知識、技術を身につけるために修士課程程度までの教育が不可欠になっていることを反映したものであり、今後共その傾向は強まってゆくものと考えられます。

貧乏国日本の将来は工業立国の目標に情熱を傾け努力いたさねば世界の自由競争に悔を残さねばなりません。いまや一片の修業証書に頼って世を渡ってゆくような安易な考えは捨てねばなりません。マッカーサー將軍は努力と意欲なき青年は青年の資格を失ったものであると強く青年に訴えました。

4月号の文芸春秋にフランスの新聞記事が載っていましたが、それを読んで見ると世界の造船状況がロイド協会の調査として報告されています。それによると昭和29年日本の船舶建造吨数は世界全体の8パーセントで第4位でしかなかった

ものが、昭和40年には世界の船舶建造吨数1223万屯中の534万屯は日本の建造吨数であり、実に世界の第1位にのし上ったのであります。そして世界造船吨数の43.5パーセントの日本は第2位のスウェーデン10パーセント、第3位の英国9パーセント等を遙かに引き離してしまつたのであります。その理由として日本の技術の躍進的發展をあげています。そして品質の向上、作業の合理化、工場人の意欲がかかる結果をもたらした根源であるとしています。堅牢であり、乗心地よく建造費がフランスと比べ30パーセントかた低廉であり、日本との競争意欲が失せたとフランス人を嘆かせました。

大学院学生諸君にとっては、設立の歴史も浅く、その施設においても、教員組織においてもまだまだの感があり、耐乏を強いる現状ではあり、一方教員にとっても研究と教育に多大の負担増加等の困難もありますが、お互いに力を合せてこの困難を克服して目的の達成に努力いたしましょう。

幸に諸君は2年間研究の座を与えられ、実力を培うに絶好の場と考えられます。

昔読んだ書の中に次のような名句のあったのを思い出します。「日は照り、月は輝き、星は光り、水は流る。自然の運行に何の作意かあらん」と。

全く天の運行は健全であります。自然は理路整然として一時の停滯もなく、虚飾もなく、そしてへつらいもありません。真理とその研究は汲めども汲めども尽きるところを知りません。研究成果の結集とその応用は人類社会に福祉をもたらします。諸君の大成を心から念じつつ入学歓迎の言葉といたします。

### 昭和41年度信州大学大学院繊維学研究科合格者

専攻	氏名	出身	大学名	専攻	氏名	出身	大学名
繊維農学	大谷 義憲	長野県	信州大学繊維学部	繊維工学	片貝 良一	群馬県	群馬大学工学部
繊維工学	野沢 寛氏	愛知県	信州大学繊維学部	繊維工学	北沢 宏造	長野県	信州大学繊維学部
繊維工学	江尻 公機	福島県	信州大学繊維学部	繊維工学	中川 裕史	近畿大学理工学部	近畿大学理工学部
繊維工学	関 常勝	長野県	信州大学繊維学部	繊維工学	福田 雅彦	広島県	大阪工業大学工学部
繊維工学	風間 武彦	三重県	信州大学繊維学部	繊維工学	細田 衛	長野県	信州大学繊維学部
繊維工学	遠山 紘司	宮崎県	岐阜大学工学部	繊維工学	柳沢 正巳	信州大学繊維学部	信州大学繊維学部
繊維工業化学	漆戸 邦夫	長野県	信州大学繊維学部	繊維工学	飯田 一	信州大学繊維学部	信州大学繊維学部
繊維工学	岡崎 正樹	山形県	信州大学繊維学部	繊維工学	荻原 誠	群馬県	横浜市立大学文理学部
				繊維工学	金井 清	長野県	信州大学繊維学部
				繊維工学	小林 俊一	信州大学繊維学部	信州大学繊維学部

## 繊維学部第14回卒業式

信州大学繊維学部第14回卒業式は3月10日午前10時から母校講堂において盛大に挙行された。土屋事務長の開式のことば、小泉学部長の式辞、学業なって社会に飛び立つ卒業生に

## 卒業生を送る言葉

信州大学繊維学部長 小 泉 清 明

本日本学部の第14回卒業式を挙行するにあたり多数の来賓各位と父兄の皆様のご臨席をいただきましたことは学部の誠に光栄に存するところでありまして厚く御礼申しあげます。

本学所定の単位を修得して本日それぞれ農学士あるいは工学士の称号を授与せられた諸君は繊維農学科28名、紡織工学科38名、繊維工業化学科33名、繊維機械学科40名、合計139名であります。4年間の学業の功によってこの栄ある卒業式に列席できたことは卒業生諸君の喜びはいうまでもありませんが、また諸君を今日あらしめた父兄母姉の皆様のお喜びもさこそと推察いたされます。長い間ご苦労様でした。諸君の本日の栄光は決して諸君の力だけではなく保護者の皆様の並々ならぬご苦労によること、また社会が諸君に許した寛容の制度によることをこの際十分に心に噛みしめてほしいと思います。この4年間諸君と日常をともにしたわれわれ教職員も諸君の成業と社会への船出を心から祝福いたします。

さて諸君はいまめいめいの人生航路に大きな段階を画して学園を去ろうとしています。諸君の胸中には過ぎ去った長い学生生活を回顧し社会への船出について展望するさまざまな感懐が去来しているであらうでしょう。この学生生活の最後の場にあたって4年間諸君と生活をともにした立場から、私は若干の感ずる所と希望を述べて諸君へのはなむけの言葉といたしたいと思います。

諸君の大部分はやがてはあるいは明日から技術者と呼ばれる運命をになって社会に出てゆくのであります。この世出のあり方は、ここ数年来のあり方と若干趣きを異にしているようであります。諸君の就職先は昨年あたりから兆候をあらわしはじめ、本年はいっそう顕著になった中小企業が多いのであります。3、4年来続いた経済界好況の波にのって大企業への就職は、いわば業界の設備投資拡大のための人的不足を充足させる手段に過ぎなかったように思います。いわば若い卒業生は大海の中の木の葉にも似た存在でした。けれども本年諸君が向かおうとする中小企業は厳しい条件の枠の中で諸君の運命をかけての戦いの場所であり、諸君の一挙手一投足が直に全体の経営にひびく程のものといつてよいのであります。浮わつた気持ちは許されず、重大な覚悟が必要であります。けれどもそれだけにまた働き甲斐のある場所とも云えようではありませんか。このような場所で諸君はどのように自分の力を発揮しどのように自分の運命を開拓してゆくであらうでしょうか。20世紀の後半は科学と技術の波が荒れ狂う舞台であり戦後の日本文化の驚くべき変革も文字通り近代科学と技術の産物に外なりません。まことに科学技術と社会の相互の依存と相互の滲透は歴史の過程でかつて見られなかったほど濃厚であります。科学と技術を較べると技術はいつともその時代の生産様式、生活様式に幅広くしかも急速に前線を作る特徴をもっています。しかも現代の技術は単なる過去の伝承や実地の経験の連続では前進しませんし日本にとって激しい国際競争や技術革新の波もまたこれを許しません。現代の経済的要求に反応した技術の進歩は科学の介入なしには行なわず、技術の壁を打破するものは科学以外にないのであります。19世紀の半ばフランスのバストールは酸敗したぶどう酒の酸酔液の一滴を顕微鏡で検査するということだけの着想で

はなむけの言葉があり、三村大学長から卒業生139名に証書が授与された。つづいて三村学長の告辞、中村文部大臣（信州大学教育学部長溝口亮一氏代読）の祝辞があり、エレガントな卒業式は最後に一同「螢の光」を合唱して午前11時終了した。

通常の酵母菌のほかに一種の細菌を発見し、バストール殺菌法を完成してワイン製造業を救ったのであります。諸君は常に技術者のマンネリズムにおちいることなく、常に科学の動向に注意を向け、新しいその結果を諸君の技術の裏づけにして欲しいのであります。だが諸君が技術の世界に入ったとたんに第一に嘆くであろうことは、恐らく諸君が大学で貯えた学力や実力の不足についてでありましょう。あらゆる生産機構は諸君が身につけた知識では理解も応用も不可能なものが大部分でありましょう。だが諸君が若しやろうという積極的な気概さえもてば最初の戸迷いもマンネリズムから抜け出すこともさして不可能でなく、気概の中に画いたブループリントは事実としての勝利となって表われることは必然であります。

次に社会の中で人間としての生き方について一言したいと思います。現実の社会は長い間過してきた学園生活とはおよそ趣きの違ったものでありましょう。実社会の中ではいろいろな事柄がからみあって諸君に働きかけてきます。その働きかけは恐らく純粋な心情の持主である。フレツメレの想像も及ばない複雑性と不合理をはらんだものでありましょう。中でも問題になる事柄の一つは新旧思想の相違であります。現実にはそれはしばしば経営者階級にぞくする年輩の人々と諸君との間に発生します。戦後大きく変った一つの事柄に、若い人々の解放感があります。若い人はみな明るくなんの屈託もないように見えます自分で観察し、自分で考え、自分で判断して自己を表現するのが戦後の教育のあり方とされ、青年達は実によく自己を表現します、しかし私自身いつも痛感することではありますが、この活発な発表も自分の意見というよりは、世間にいいふらされている公式的な言葉をただその場の空気に応じてたくみに使い分けているだけのものが多いのではないか、甚しい場合には外部の指導者たちの一方的な指令をおのおのの場に対応した適用性など少しも考慮することなしに無批判に流す種類のものをしばしば見受けまゝ。言葉には重みも内容もなく歯の浮く感じの空々しいものであります。若い人々は戦前のあらゆるモラルを封建主義の名の下に否定しようとしています。その結果として期待される人間像もいつているように、社会人としての礼儀を欠き秩序を無視しがちになります。昔は家庭も学校も若者を厳しくしつけました、その中で若者たちは自然に自分の生きるモラルを獲得しました。今日はそれが無い。だから自分でそれを探さねばなりません。それを探さう人は幸福であります、大部分はそれが出来ない。若い人々が現世主義におちいらざるを得ない原因の一つもここにあると思います。精神空白のまま自己表現、青年の無気力、刺激に対する慢性的な無反応状態、目先だけの尺度で物事をはかる現実主義その上に社会が全く表面的で裏に矛盾と不合理のさばる荒野であるとすれば若人達は夢も希望ももてないわけでありまゝ。恐らく諸君は社会に出てこのような混沌と困惑を身をもって体験することでありまゝ。幻滅の悲哀、職場への嫌悪そしてあきらめの結果は、さらに無気力になり大勢順応主義か卑屈な権威従属主義に随します。それから抜出してどのようにして自己を確立するかそれを諸君は諸君自身で探さねばならない

と思います。独自の筋の通った生きるための指導精神が身につかなければその人は人間であるためには常に苦悶しなければなりません。社会的規範にしても私は古いものをそのまま受入れよとは云いたくありません。しかし長い間日本民族としての伝統と慣習の中にはよきものも必ずある筈でありますし、また諸君の現代的モラルのみか正しいと思う態度も批判されねばなりません。私が諸君に云いたいことは、とうとうとして流れる表面的な世相の中にあっても、あるいは人間の疎外をますます深刻化する機械文明の巨大な渦の中にあっても、なにとぞして自己を見失うことなく一人で考え一人で努力して欲しいということであります。広い視野と深い洞察に基づいて自ら事態を判断し身処理推進してゆく態度を身につけて欲しいのであります。苦しい思いに負けず、常に自信をもって自分を一步一步前進させてゆこうとする積極的な意欲と実践、この決意を秘めてこそ、いかなる戦場にあっても混沌の社会の中にあっても心の平静と人間性の統一が保たれると私は確信します。そのために諸君は諸君の青春が無

限の可能性を備えていることを忘れてはなりません。その青春を宝のもちぐされにしないで欲しい、苦勞の末到達した山の頂には誰のためにも広い展望が開け人間らしい歓喜があります。

最後に一言します。諸君は社会に出て、諸君が過ごした最後の学生生活の場をいつまでも忘れないで欲しいのであります。大学はいま社会からさまざまな批判は浴びてはいますが善きにつけ悪きにつけ社会のどこに大学ほど、未来の約束された多くの若者達が集まって人生の形成期を過ごすことのできる場所がありませんか。そこで若者達は人生の階段の上に彼等の足をセッとするための数々の勉学をな行い多数の先生や友人をもつことができるのであります。これらは何れも諸君の長い人生の伴侶になるのであります。

諸君はこの信州のきれいな空気の中で伸びるための4年間の蓄積をしたその縁を思い出してこの後とも学校との結びつきを忘れないで欲しいのであります。終りに臨み諸君の自重と自愛を心から祈念いたします。

## 祝

本日の卒業式にあたりめでたく卒業の栄誉をになわれた諸君のこれまでの努力をたたえその新しい人生の門出に心から祝福のこぼれをおくりたいと存じます。

今日わが国は内に経済成長の安定をはかり社会開発と教育科学文化の振興に力を注ぐとともに外は友邦諸国民との親善を深め経済文化の交流につとめて相互の進展向上に資する一方アジアの先達としてアジア諸国の興隆開発に協力しその平和確立のために努力をつづけております。このようにわが国は内外ともにきわめて多端なるものがありますが、これら各般の施策の推進にあたって国力の調和ある発展と明日の世界の繁栄に貢献することを目標としていることはあらためて申すまでもないところであります。

20世紀もすでに半ばを過ぎて21世紀に近づいておりますがきたるべき世紀におきましては原子力による生産をはじめ各種の技術開発へと今世紀の人類の英知がもたらした輝かしい成果がさらにいっそう高められることでありましょう。しかしながら科学文化のこのような高度進展がもしその半面高い次元の精進文化を伴わないとすれば人類の幸福はなおはなだ遠いと申さなければなりません。すなわち科学文化と精神文化がたがいに均衡のとれた発展をとげ科学技術のめざましい成果とともに道義精神が尊重されることによって初めて人類はゆたかな恩恵に浴するものと思われま

## 辞

文部大臣 中 村 梅 吉

この際教育學術文化経済産業その他社会生活のあらゆる活動分野の人々が物心両面から世界人類のためという高い理念のもとにたゆまぬ努力をつづけることが肝要であります、とくにつぎの時代のにない手である若人たちが確固たる決意と旺盛な気概をもってこの高い理念の実現に邁進するとき光明は必ず招来されるものと信ずるのであります。

かような際に名誉ある本学の卒業生として社会各界に活躍される諸君に対し国家社会の期待するところはきわめて大きいものがあります。

諸君は今後いずれの方面へ進まれるにしてもその責務の重大であることを自覚し不断に徳性をつちかい識見を高め試練や苦難を乗り越えて豊かな経験を積み社会連帯意識を高揚するとともに各自専攻を生かして意義ある人生を築き有為の社会人として社会各界の期待にこたえるよう努力しなければならぬのであります。また広い視野のもとに国際感覚を養い世界の人々からも尊敬され信頼されるようつとめるとともにすぐれた文化と伝統をもつ祖国への愛情を深め新時代にふさわしい国家建設と世界の平和人類福祉の向上に貢献されるよう希望してやみません。

ここに諸君の成業を祝して今後の努力にのみり多からんことを祈ってお祝いのことばといたします。

## 定 年 退 任 の 御 挨拶

大 平 敏 彦

私は去る3月31日を以て定年で退任する事となりました。昭和15年以来26カ年の間何もなす事なく過しました事は申し訳ない次第と思っております。始めて本学園に赴任して来ました時は「糸とは何であるか」と云う事で大変悩まされたものです。然し皆様の御援助により段々薄紙をはぐ様におぼろげながら理解出来る様になって参りました。多少解って見ますと仲々問題が多く研究の分野の広い事が解って来ました。化学科創立当時は教官の数が少なかった為有機化学、無機化学、生物化学、応用化学等の講義及び実験と色々と担当したものです。然し此れ等は嘗て大学で学習した事なので些して困りもしませんでしたが、その後高分子化学を担当するに当っては高分子と云う語が未だ新しかった頃の事なので大いに当惑しました。それで桜田先生等の講演がある毎に大阪や京都によく出張し、拝聴して何とか講義が出来る様になりました。今にして思えば冷汗の至りです。私は繊維化学科創設に

伴い赴任して来ましたので今の木造校舎の上棟式にも参列しましたが、その時浅間山の芽型の大噴煙を始めて見て大いに驚きました。実に壮観なものでした。これは繊維化学科の未来の発展を暗示するものの様に感じました。案の状科も学園全体も改革され今日の発展を見るに至りました。最近教官も増員され、校舎も大部分改築され、近く繊維工業化学科も鉄筋に新装を整える事になり、大学の様相を明に示す様になって来ました。私の在任中に我が学園が次第に発展し今日の盛大さを見るに至りました事は誠に嬉しい限りであります。又此の25年余の間何も御役に立たなかった事は申し訳ない事でしたが、常に楽しい年月を過ごさせていただきました事は繊維学部の皆様方の御厚情によるものと深く感謝している次第であります。今後も我が繊維学部の発展の程を切に御祈りして止まない次第であります。

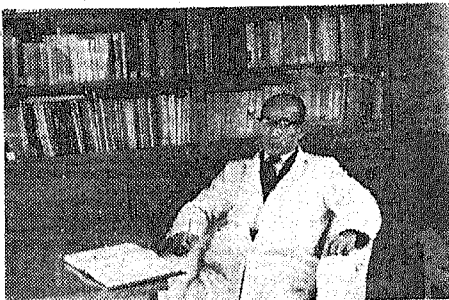
## 学 部 長 新 任 の 御 挨 拶

柳 沢 延 房

このたび計らずも学部長に就任することに相成り、紙面を拝借して一言御挨拶申し上げます。

小泉前学部長には学部発展のための一念に燃え、驚くべき熱意をもたれ数多くの業績を残されたのでありまして、拙者ごときは自らを知るだけにその任でないとは存じますが、おひきうけいたしました上は、誠に非才浅学ではありますが各方面の御支援御指導により悔いなくその重責を果す覚悟を新にいたしました次第です。

大学は申すまでもなく教育の場であり、研究の場でありまして、その両者の達成はなかなか容易な業ではありません。



せん。わけても教育の内容に立ち入って考えますとこれは一朝一夕の努力だけではどうにもなりません。一面まことに地味であるだけに等閑視され勝ちであります。日本の科学技術

の発展と相まって青年学生の教育は日本将来の堅実な発展と平和社会を決定する大事な因子であります。

一方に偏せず健全な学園をつくり、先輩各位の多年にわたり培った立派な伝統をけがさぬよう更に一段の努力をいたし度いと存じますので、同窓の各位におかれましても、学校のため、学生のために深い関心をもちたい。陰に陽に御助力下さいませう重ねてお願いいたします。

## 信州大学繊維学部

## 第 14 回 卒 業 生

## 繊維農学科 (28名)

氏 名	就 職 先	住 所
荒井 優実	富山県衛生研究所	富山市大手町
石川 敬次	農林省蚕糸試験場 岡谷製糸試験所	岡谷市郷田1—4—8
石黒 善夫	農林省横浜生糸 検査所	横浜市中区北中通5
市川 尚武	東海染工 KK	愛知県西春日井郡 西枇杷島町
岩野 汎男	信 光 技 研	上田市岩下
大山 敏幸	緑 屋 KK	東京都世田谷区大子堂町
河西 俊人	中村産 業 KK	大阪市東区瓦町3—18
川田 正	山田染工 KK	大阪府堺市深井清水町
北沢 清	亀山製糸 KK	三重県亀山市
櫛部 忠一	宮岡燃糸 KK	埼玉県入間郡西武町 306
黒沢 健一	吉 忠 KK	京都市中京区室町通
後藤 英夫	国立公衆衛生院 環境衛生学科学学生	東京都港区芝白金町
小松 勉	宮入菌剤研究所	埴科郡戸倉町
斎藤 英毅	田辺製 業 KK	山口県小野田市
佐藤 昌一	群馬県立利根 農林高校	群馬県沼田市
高野 義俊	アラ商事 KK	京都市下京区烏丸仏光寺 南入る
高橋 忠彦	愛知県設業事務所 内設業蚕業指導所	愛知県北設楽町田口
中村 梧郎	春日製 作 所	埼玉県上尾市西宮下
南部 颯	日本製麻 KK	神戸市葺合区北本町通3
野沢 寛氏	信州大学大学院 学生繊維学部	
堀坂 元昭	国立公衆衛生院 環境衛生学科学学生	東京都港区芝白金町
丸山 哲夫	東洋サイジック KK	群馬県伊勢崎市長沼本郷町
南 勲郎	大阪工業試験所	大阪市都島区南通り
山本 昭稔	千代田化工建設 KK	東京都港区赤坂田町
森 幸夫	千葉県水道局	千葉市

湯沢 隆義	宮入菌剤研究所	埴科郡戸倉町
横井 武敏	松与毛 織 KK	愛知県中島郡祖父江町
山本 俊雄	農林省蚕糸試験場 東北支農場	福島市飯坂町

## 紡織工学科 (38名)

青山 紘一	特 許 庁	東京都千代田区三軒町1
秋山洋次郎	飯田女子 高校	長野県飯田市外上郷村別府
浅田 修	片倉工業 KK	東京都中央区京橋3の2の4
足立 圭章	平田オレフィン KK	三重県四日市朝明町 西ノ川原13
伊藤 俊二	中部旭紡績 KK	名古屋市東区東本重町 4の1
市川 昭	防衛庁人事局	東京都港区赤坂槍町3
江尻 公機	大 学 院 進 学	信州大学繊維学部 繊維工学科沢路研究室
岡田 英彦	研 究 員	〃 〃 石川研究室
加藤 美治	大 学 院 進 学	〃 〃 〃
風間 武彦	〃	〃 〃 共通基礎専門 佐藤研究室
片岡 稔	厚村ナイロン KK	神奈川県高座郡海老名町
片岡 武	平田オレフィン KK	三重県四日市市朝明町 西ノ川原13
金井 洋	帝国産 業 KK	大阪市北区中之島2の18
目下部安秀	城南製 作 所	長野県上田市若久保
小林 克巳	牧野織 維 KK	神奈川県足柄上郡大井町
小林 俊朗	東洋メタライ ジック KK	東京都千代田区神田司町 1の19
佐藤 芳子	光和紡績 KK	愛知県海部郡菰田寺町
鈴木 康之	田島シルク KK	三重県亀山市阿野田町175
鈴木 理三	浅田紡績 KK	愛知県知多郡大府町吉田
角田 康則	日本中野織絹 KK	東京都八王子市大和田町 310
関 常勝	大 学 院 進 学 (日レ内定)	信州大学繊維学部 繊維工学科呉研究室
田中 信二	深喜毛織 KK	大阪府泉大津市春日町34
高田 信行	正村岸メリヤス KK	西宮市小松東町3の68
滝沢 務	大垣紡績 KK	岐阜県大垣市美和町1688
武田 克明	諏訪セーター KK	長野県下諏訪町高木8899
辻 正章	神栄生糸 KK	神戸市生田区中山手通 2の108
中村 光和	福田紡績 KK	豊橋市幸昌町字中西

長瀬 武彦 龜山製糸 KK	三重県龜山市東御幸町	吉田 英敏 東京都	東京都八王子市中野町1057
永津 憲正 倉毛紡績 KK	伊丹市伊丹古城下	繊維工業試験所	吉備莊
二藤 洋制 民成紡績 KK	名古屋市中区管原町2の11	若嶋 真吾 栗田工業 KK	兵庫県尼崎市潮江大宮1
登立 武司 信和理研 KK	東京都千代田区岩本町2の2の1岡善ビル	繊維機械学科 (40名)	
早川 佳宏 大建被服 KK	大阪市東区備後町3の18	青木 勉 ニチポー KK	大阪市東区安土町2—30
平尾 輝彦 共栄織物 KK	岡山県児島市田の口114	赤司 達 アイシン精機 KK	愛知県碧南市六軒屋敷31
藤原 利幸 旭化成工業 KK	宮崎県延岡市	石橋 洋二 東北大学大学院	
堀越 毅 平田オレフィン KK	三重県四日市市朝明町西ノ川原13	伊藤 碩二 特許庁	
本間 元章 水野商工 KK	長野県上田市鷹匠町	稲田 利勝 三善加工紙 KK	金沢市金石相生町111
八本木邦治 横田 KK	大阪市東区南久宝寺町	茨木 信吾 並木ナイロン工業 KK	姫路市東延未147
渡辺 岱有 郡是製糸 KK	京都府綾部市青野1	上田 満男 東京都立航究工業高等専門学校助手	
繊維工業化学科 (33名)		宇鷹 修一 同和工業 KK	大阪市北区宗是町1
朝井 紀明 明成商会	大阪市東区平野町1丁目24番地明成商会平野町寮	小河原一雄 五十鈴製糸 KK	三重県広会郡小俣町1352
荒川 登浜 口染工	東京都世田谷区碓町97	小沢 志朗 日本電熱 KK	長野県南安曇郡豊科町大字高塚
荒川 久雄	大阪市福島区鷺洲町1丁目22	落合 敏朗 艶金興業 KK	愛知県尾西市小信中島
安藤 重男 日本製麻 KK	大阪府羽曳野市古市900の17	金山 智夫 大阪メリヤス機械 KK	大阪市北区芝田町97
岩本 邦男 紺藤整染興業 KK	新潟県栃尾市金町紺藤整染興業 KK 陸寮	神坂 一郎 KK 酒井製作所	東京都大田区桃谷町4—8—8
岩瀬 彰孝 東海染工 KK	岐阜県羽島市小籠町東海染工 KK 男子寮	小林 邦夫 長野清泉女学院高等学校	長野市箱清水
岩本 博 長野県警		小林 俊一 信州大学大学院	上田市常入500
上田 一秋 川島織物 KK	京都府綾部市西神宮寺町東谷17	小林 政教 名古屋工業大学大学院	
漆戸 邦夫 信州大学大学院		酒井 秀雄 愛知県公立学校教員	
岡崎 正樹 //		酒向 浩 KK 河合楽器製作所	浜松市寺島町200
岡島 守 名古屋市消防局	岡崎市伝馬通り4の32	竹内 健 京都機械 KK	京都市南区吉祥院船戸町50
片貝 良一 信州大学大学院		田中 誠一 片倉ハドソン KK	東京都中央区京橋3—2
加藤 文夫 小賀坂スキマ製作所	愛知県川谷市一ツ木泉田通54の1	富岡太刀夫 信濃絹糸紡績 KK	小県郡丸子町
北 哲彦 信州大学大学院		中塚 吟造 いずみ化学工業 KK	愛知県豊橋市関屋町226
北沢 宏造 //		長野 博道 長野県庁工業課	長野市県町
小宮 良雄 竹本油脂 KK	東京都練馬区中村2の12	西保木宏男 東京大学助手	生産技術研究所竹中研究室
小山 修 愛知県蒲郡市小江町藤の木31の1竹本油脂 KK 若竹寮		西村誠太郎 ヤンマーディーゼル KK	大阪市北区茶屋町62
小山祐一郎 日本曹達 KK	長野県小県郡塩田町下之郷	野呂瀬 進 東京工業大学助手	東京都目黒区大岡山
佐々木亨 吉村油化学 KK	大阪府豊中市豊南町南5—1吉村油化学 KK 寮	花輪 省三 郡是製糸 KK	大阪市北区梅田
高木 芳男 酒伊繊維 KK	岐阜県養老郡養老町押越871の2	平林 壮紀 後藤鍛工 KK	大阪市淀川区野星西3—28—4
竹内 正信 北水社	長野県埴科郡松代町豊栄6248	福井 秀明 敷島紡績 KK	大阪市東区備後町4—34
楯身 広昭 堀田産業	北海道網走郡美幌町東1条北1丁目	藤田 哲郎 九州産業大学附属高校教諭	
鳥山 陽一 群馬県立	群馬県安中市安中3066	水村 靖司 KK 小島鉄工所	高崎市歌川町8
中村 英俊 日本ビニロン KK	岡崎市釘崎町朱印地10の1	宮島 英敏 KK 大阪アルミニューム製作所	堺市下田町26
長峰 勝 大東紡績 KK	東京都中央区日本橋堀留町2の1堀留ビル内	社 好照 山形大学大学院	
西尾 純一 綾羽紡績 KK	兵庫県尼崎市松内町49	柳沢 敏美 KK 仁円テルモ	東京都渋谷区幡ヶ谷2—44
西岡 寛 正織興業 KK	岡山県岡山市仲井町2丁目8番7号正織興業 KK 社内	山田 茂雄 KK 大阪アルミニューム製作所	堺市下田町26
藤島 融 明成化学 KK	京都市下京区西七条比輪田町37明成商会内	湯沢 慶彦 日本針布 KK	東京都中央区日本橋本石町3—6
細田 衛 信州大学大学院		湯本 通陽 日産ディーゼル販売 KK	東京都千代田区神田司町2—2
丸山 信子 朝日ヶ丘中学校	愛知県豊田市朝日ヶ丘町	吉川 守 篠ノ井旭高等学校	長野県篠ノ井市
柳沢 正巳 信州大学大学院		立瀬 五男 労働省	
		渡辺 召二 綾羽紡績 KK	大阪市東区安土町2—12

## 飯田一郎氏に博士号授与

飯田一郎氏(化3長野農試勤務)は、かねてより、母校の田口亮平先生、矢木博先生を通して「作物のマグネシウム欠乏に関する研究」の論文によって九州大学へ学位を請求中のところ、このたび1月10日付をもってめでたく九州大学農学博士になりました。専門外の私には論文の内容はよくわかりませんが、拝読させていただいたところ、しろうと判断ではありますが、つぎのような特徴やオリジナリティがあるように思われました。(1)マグネシウム欠乏症はどのような症状であられるかを各作物ごとに美しいカラー写真で説明していますが、この写真は今から10年前に撮したもので、当時としては未開拓の分野であったようです。氏が世に斯界の先駆者として知られ、またこの論文を10年前に学位論文として提出してもよかったのではないかといわれる理由もこのあたりにあるように思われました。(2)長野県下の各地帯から数百点に及ぶ土壌を採取して、その土壌の置換性マグネシウム含量を測定し、その数値によってマグネシウム欠乏土壌の定義を行なっていますが、数百点という点数に努力が感ぜられました。(3)土壌中の置換性マグネシウム含量と地質母材との関係を調べた結果、土壌中の置換性マグネシウム含量は一次的には地質母材、二次的にのみ土壌管理法によって決定されるとの新知見を提案しておりますが、このことは学問的価値が非常に高いように思われました。(4)マグネシウムとはかの諸要素との相互作用を明らかにし、とくに硅酸の存在はマグネシウムの効果を高めることを指摘していますが、このことは実用場面での施肥法に大きな示唆を与えているように思われました。(5)2、3の作物について植物体内のマグネシウム濃度

がどの位にさがれば症状がでるか、またどのような条件の時に症状が出易いかを明らかにしていますが、これは微量元素の欠乏現象を従来とちがった角度からみたもので、学問上はもちろん作物診断というような実際の場面からも価値が高いように思われました。すなわち、従来の研究は土壌中のマグネシウム含量あるいは土壌中の移動という点にのみ主力が注がれていたのに、これを別の角度からながめ、土壌診断や作物診断に役立つような学問上および実用上の知見を見出したのでありまして、まさに現土壌肥料学界の最高水準をのくものと思われまふ。

現在、氏はこの研究のほかに、水稲や牧草の多収獲理論ととりくんで土壌肥料学的新知見を得ようと努力されつつあり、また養分吸収と根の細胞組織学とを結びつけて、この分野での新機軸を開拓しようと意気込んでおられます。

氏は長野市安茂里の旧家育ち、大正11年生れ、背丈高く太からず細からずの外人並美男子、親分的な色彩極めて濃厚で自分の身近、学窓、友人などに対しては事の善悪、状況のいかんを問わずよろず引受け(母校の仕事もそうである)その反対者には断固として戦いをいどむため、往々にしてきゅう地におちいり誤解をまねく損な男、日頃は強気な彼氏ですがさる3月28日に県庁関係職員で氏の祝賀会を開催したところ感激でアイサツにならなかった由……、頭のきれ味、フット、研究感覚は申し分ありませんので、将来の大成のために軟かさのはいった大親分になられるよう切望している次第であります。(長野農試戸田行農1)

## 鯨を追って南氷洋上へ

捕鯨船団監督官 齋 藤 義 臣 (至32)

「ドーン」「ググググ」ぐらぐらと体がふるえてくる。

山のような大波に乗った船体が、その山と山の谷に落ちて行く、そこへ次の山の波が叩きつけられてくる。

卓上のコップは落ちて粉みじんに割れる。嵐は「ビューンビューン」と音をたてて吹く、風速40米、四階位いのところに居る私の船窓に、しぶきが飛んで来る。

わずか2センチ足らずの鉄板の船が、どうして砕けないかと、ひやひやしている。勿論船が沈めば350人の人間は、あの世行きた。

3日たっても5日たっても、荒れに荒れる海を、恨み目にみつめてみると、何でこんなところへ志願して来てしまったろうかと後悔。

10月31日横須賀港を発った第20次南氷洋捕鯨船団「日新丸」は、10日目に赤道からスンダ海峡を経て、インド洋に入り、11月30日南アフリカ(ケープタウン)沖に着、これより西へと暴風圏に入り、さらに進んで、南緯50度、西経50度の漁場に着いたのは12月12日であった。

アルゼンチンは2日もあれば届くところまで来ているのである。

今年の捕鯨は世界中で白ながす鯨換算4500頭(ながす鯨2・いわし鯨6がそれぞれ白ながす1頭と換算)その内日本が52%、ノールウェー28%、ソ連20%の割合で捕るのである、日本では大洋・日本・極洋の三社が出漁している。漁期は12月12日～4月7日までである。

私は大洋の監督官として乗船し(次席三席の二人と共に)任務は、捕鯨頭数・鯨体間・子持鯨の禁漁等々の監督指導に

当るのである。

一母船団は、母船(鯨解体・製油作業)と冷凍船(鯨肉冷凍3、探鯨船2、捕鯨船6、曳鯨船2の母集団であり、総員1500人で構成されている。

年々鯨は乱獲のおおりを受けて、減少が甚しく、近年の内に地球上から姿を消滅するやもしれない状態に陥っている。したがって此のように40日余も航海して漁場に到着するようなどころまで来なければならないのである。

かつて白ながす鯨(100トン・体長30米余・約800万円)の多く捕れた時代は過ぎ、ながす鯨(50トン・体長20米余)すら今年はなかなか捕れず、ほとんどが、いわし鯨(20トン・体長15米)の捕獲に集中している。

海深6000米のこんべきの海に鯨が潮を吹き上げては、海中に潜り、また潮を吹いて、裕々と集団をなして遊泳している姿は、山国に育った私には夢の国に來たような実感である。

だが一度捕鯨船のモリが近よれば、彼等とて逃げに転ずることは必常であり、如何に逃げても人間の智慧には抗すべくもなく、撃ち捕られてしまう。

その赤い血しぶき、そして白い乳の噴出をみると、同じ哺乳類であるだけに、いささかへんな気持にもなるものである。メス鯨の胎内には10センチ位の胎児から、3米もの胎児が入っており、へその尾が付着して人間と全く同様である。

日本を秋に出て、赤道の無風と炎暑を通過し、夏とは言え南氷洋は寒さが厳しいところに出る。そして日本に帰る時期は、桜の花の散った5月となっている。着る物は年間の用意をし、その体調の調整もむずかしい次第である。

テレビも新聞も花もない、只々まん丸い海のど真ん中に、



ゆらゆら動いている。どこへも寄港せず半年間野郎共だけで船上生活をするのが、人間的に如何に味気ないものかを充分味っている。

毎日海水湯に入り、洗面器で裸を洗っている姿は、軍隊生活を思い出す。それでいてボーイがベットを掃除し、洋食のサービスをするところは、近代と前代の矛盾を感じずにはいられない。

日本を離れて1ヶ月は、船酔いに悩まされ、それが治ったら、多発性ロイマチスにかかり、身心共に全く打ちのめされている今日ではあるが、乗りかけた船であれば如何とも仕様なしというところである。(もとより船医も居るわけである)

今日1月20日午後7時、日本では21日午前7時であるから丁度12時間違っているわけで地球の真裏といえるであろう。

電報なら1時間で通ずる日本との距離も、手紙は40日余かかり、しかも何時船の便があるかによって、手紙を出す次第である。この便も皆さんの手もとに着く頃は或は私も日本に近づいている頃かも知れない。

嵐がなければガスで一寸先も見えず、晴れる日が極く少ない南氷洋は、上田の桔がらし吹きすさぶ冬よりも厳しく、何

時も灰色の空といったところである。

南洋ボケという言葉が戦中戦後にあったが、私も船に乗ってからは、頭がいやが上にも低下している事を痛感している。皆乗組員は単純化されて、むずかしい事は考えられないようである。従って酒でも飲むが、小説でも読む以外に、身も心も置き場がないというところであろう。

こんな生活を20回もつづけている仁が多いということは、20年間正月を南氷洋のペンギンと共にしたことであり、その苦心は思いやられるが、何と芸のない人生ではないか、とも考えられる。

こんな男を夫にした女房こそ、金も使わず、浮気もしない働き蟻を持っている女王蟻のようなものである。

ここではラッシュアワーもなければ、交通事故もなく、盗人もいない。近所親戚のつきあひとか、家庭内の煩わしさもなく完全な個人の時間が相当与えられている点が、せめての良さでもいえるようか。

明日は何処へ向うかも知れない船室で、荒れ狂う海と冷たい空を眺めて、マンドリンを奏している私。あぁなんと。

## 清水衛敏 君を悼む

大正13年、養蚕科卒業の清水衛敏君は、昭和41年2月27日午前3時、64才の生涯を閉じた。高血圧の為だったという。此の月の24日は東京地方今年最低の温度を記録したが、こんな事もあって体調に変化を来したか、2日程前から苦痛を訴えるので医師の診断を受けたが遂に及ばなかった。ご遺族に見れば看病らしい看病もせず、アッケなく生命を奪われ、永遠のかなたに旅立ちさせた事、何にも増して心残りに思っておられるに違いない。

彼は我が同窓の中でも異色の経歴の持ち主であった。即ち

1、学校卒業と同時に片倉製糸紡績株式会社(現片倉工業)松本工場に入社、普及団勤務、その間諏訪蚕糸学校教諭昇命珠算を教える。

1、昭和2年4月19日、会社を退職(片倉工業調べ)馬来半島、蘭領東印度諸島の産業調査の為である。主として養蚕の可能性についてであったようだ。其の中、スマトラでは実際に桑を植へ、養蚕をして、適地である事を確認した。片倉工業30年史によれば片倉は昭和5年6月16日スマトラ島ベンクウレン州レヂヤン区チヨロップに面積219ウ 466ルートの世襲借地権を買い入れた旨、発表している。彼の調査結果によると思われる。その彼はかの地に赴任の為、長崎港から乗船の筈だったが、その直前、内地業界からの圧迫があった為か、或は和蘭側で日本に侵略の意図ありと考えた為かその間の事情不明の儘渡航中止となったのは残念のきわみであったと思われる。

1、昭和5年6月、片倉系の満洲蚕糸株式会社(資本金100万円、本社、旅順市富士町3番地、創立昭和元年)に入社した。

満洲国南部、関東州は養蚕適地である事は南満洲鉄道株式会社熊岳城農事試験場勤務の大先輩、湯川秀夫氏により立証されているが、満洲蚕糸でも満洲における蚕糸開発の基礎確立の為、関東州金州に蚕種製造所を設け、営城子を中心に委託養蚕を行ない、得た繭から旅順で生糸を製造するという大計画を樹て着々準備を進め実行に移した。然し乍ら押し寄せる不況の波と、会社内部の複雑な事情の為、社運衰微の1途をたどったのは真に止むを得ない事だった。此の間、満洲事業は進行し、昭和7年には満洲国が成立するに至った。

1、昭和8年12月満洲炭礦株式会社、北票礦業所に入社。

昭和8年2月日本軍は熱河省に侵入、更に長城を越えた。

此の時期には彼は憂国の志士のような心境にあったのではあるまいか。12人程の先駆の人々と共に北票炭礦を接収し操業開始の準備を進めたのである。此の間彼は労務課長として労働力の確保を推進し撫順に次ぐ出炭量をほこる山としたのである。此の時代は彼の最も華かに、生き甲斐を感じた時代だったにちがいない。労働力を確保する事は出炭量を確保する事である。此の為彼は山東省に北支に骨身をけつて苦力の募集に努力したのである。苦力の方でも彼の抱よう力ある大陸風の風ぼうに接して信頼感を強めたにちがいない。苦勞も多かったが私生活も充実していたようだ。誰かが彼は王侯の如き生活をしていると評したものだ。山を下って新京に出て来れば見るもの聞くもの皆新鮮だ。同窓の誰、かれとなく話し込んで時には痛飲する。彼独自の音楽とダンスで笑わせる足をすべらせて2階からすべり落ち、したたか腰や尻を打って立てなくなる事もある。かくして英気を養って再び山に帰って行くのである。山東省に出掛ける時は大低大連から船に乗るが、茲でも校歌をうたって英気を養うのである。完く此の仕事は彼に向いていたようだ。然し敗戦はすべてを御破算にした。むなしく内地に引揚げの運命となった。

1、昭和21年6月、故山にかばん1ヶを持って引揚げて来た。

1、昭和23年3月、株式会社群馬社に入社。原料部門を担当する。

1、昭和27年11月、株式会社電通に入社。人事部給与担当副部長。

此の仕事は机の仕事だ。仲々つらい仕事だったと思われる殊に年輩になってから若い社員の苦情を聞き相談に乗る事は気骨の折れる事だ。不向だと思われる仕事でも精進して立派にやりとげるには並々ならぬ努力が必要だが彼はそれをやりとげた。同僚からの受けもよかったようだ。

1、昭和37年3月、電通を辞して、日本トトバイ株式会社(後にクロレラ食品株式会社と改称)に入社。

定年で電通を辞めたのだが、聞いたところではそんなに急ぐ必要はなかったようだ。然し彼の性分から見ても机の仕事より工場の方が向いていると考えたにちがいない。此の会社は大豆に特殊酵素を働かせて蛋白質を取り出し、滋養飲料や豆腐を製造したのだが、新規事業の経営はむずかしい。折角の努力にもかかわらず、収支整わず、遂に解散の憂き目を見る

に至ったのは残念至極であった。

1. 昭和40年1月、港ヨーグルト株式会社に入社。大いに働こうという時、惜しくも他界する悲運に会った。

以上が彼の経歴の大要だが、彼は過去を語らず、誇らず、何事にも精一杯の努力をするといった性分だったので、知られざる数々の事柄、逸話があったに違いない。

彼は健康には自信があった。周囲も亦それを認めていたようだ。昨秋親戚のものが手術した時進んで250 ccの血液を供出したが、その時血圧が250もあり、医者から注意された。

## 佐 土 孝 君 を 偲 ぶ

審判長 横 内 豊 彦 (糸22)

佐土君の告別式は、昨年12月21日午後1時より2時まで、自宅(神奈川県高座郡海老名町上今泉1364番地)で行われましたが、同窓生の方をはじめ、当庁職員の方、特に技術懇話会会員多数の方々が、遠路わざわざ参列なされ、私、佐土君の出身校信州大学繊維学部先輩の一人として、同郷(長野県人)の一人として、また審査第3部「繊維」の出身者としてこの紙上をお借りしまして、厚く厚く御礼申し上げます。

技術懇話会の役員の方のおすそめもあり、ここに故人のひととなりをお紹介し、皆様と共に在りし日の佐土君を偲びたいと思います。

佐土君は、長野市に生れ、お父上は学校の先生でしたが、昭和35年1月10日に亡くなられて、只今は、お母上が、郷里長野県更級郡川中島町本町に只一人で住んで居られます。

そして、亡き佐土君の御霊は、お父上と一緒に長野市善光寺納骨堂に安置される予定になっています。

佐土君の悲報を知らされたのは、12月18日(土)午後9時前後でしたが、余りにも突然の死に、全く信じられませんでした。私の脳裡には、昭和32年特許庁採用試験場の彼の応答の態度や、市ヶ谷の私学会館の結婚式場の彼の幸福そのものの明るい顔等が、次から次と浮んできました。そして私が仕事のことと前日の17日(金)に、久しぶりに「繊維」の部屋を尋ねた時、彼は遠くから笑みを湛えて、何時もと違って、とても楽しそうに話かけられたことが、この世のお別れの挨拶だったと思われ、不憫でなりませんでした。

翌日お宅を尋ね、柩の蓋をあけてみたが、悲惨な自動車事故とは思えないほどの穏やかな顔で、私もほっとしました。遺族のことは、私共に一切任せ切ったような、この姿に接した時、私共が、これから皆で、ご遺族の将来をお守りすることが、佐土君の御霊を慰める何より大切なことだとしみじみ感じました。告別式のお宅は、小田急線の海老名駅の近くで東京より遠距離にあり、しかも年末で御多忙な時期でもありましたので、御迷惑をお掛けしてはと思いましたが、特許庁の職員の方は勿論のこと、会社の方々まで御焼香下され、中には遠く関西方面より、わざわざ御参列下され、200名以上に達し、若くして亡くなられた佐土君の人徳の程が偲ばれました。

佐土君の思い出は、幾つもありますが、私の印象に残っているのは、彼がよく「特許庁は自分の性格に最も適した職場だから、自分の死に場所と考えている」ということとでありましたが、それが、あまりにも短い期間の死に場所になったことを非常に残念に思います。特許庁のためにも、御遺族のためにも、掛替えのない損失だったと思います。

佐土君は第1回目に昭和31年の特許庁採用試験を受け、運悪く合格できなかったが、翌32年2月公務員試験に合格し、つづいて第2回目の特許庁採用試験を受けました。丁度私が「繊維」の審査長でしたので、口頭試問で2回までも特許庁

本人は自覚症状がなかったらしい。以後勉めて養生に留意したが愛酒家の彼はウイスキーは血圧によいのだといって水割りして呑んでいたという。

大陸の大人風の風格があり、物事に執着しない、相対する時、ほのぼのとした暖か味を感じるといったような人柄であった。誰にも好かれる円満な常識人でもあった。健康体だったので自他共に90才位は永生きするだろうと思っていたのにたった2日の臥病で他界するとは、はかない人生を感じずにはおられない。冥福を祈る次第である。(11期生・青木)

を志願された理由を尋ねると、「私は在学中、化学分析に関する装置の発明をし、発明に特に興味を持っているから、一生の仕事として、特許庁のようなところに是非就職したい」と答えられ、採用試験は優秀な成績で入庁が決ったわけでありました。

昭和37年12月9日と子縁と結婚され、現在1年6カ月の明君を残されて他界されましたが、出生の時、名前をつけるのに、彼は、繊維化学科の出身だから、「化合物の名前である「ベンゼン」<sup>①</sup>にならって「勉彦」と命名しようとしたが、結局は「発明」の「明」の字をとってつけた、と生前云っていた彼の言葉からも、彼の物の考え方が伺われます。

佐土君は、繊維化学が専門ではありますが、機械器具をいじるのがとても好きで、家庭においては、台所の換気装置、掘り炬燵その他日曜大工もお得意で、近所の旦那さんのお手伝いまでして、近所付合も大変評判がよかったようです。

機械器具で思い出されるのは、御存知の方もあるかとも思いますが、官民合同の趣味のグループがあります。これは通称「JALA」といって錠前などの新製品を調査する趣味の会日本ロック研究会(世話役、資料整備課長、竹内尚恒氏)がありますが、彼はその有力メンバーの1人でもありました。この外、佐土君の趣味は広く、学生時代から写真は玄人の域に達し、卒業アルバム(繊維化学科25名)などは全部彼が1人で作製したとのことで、このような彼の器用さと世話好きも、見のがせない特徴の一つです。最近では両面印刷できる印刷紙についても創意を巡らせていたようです。

学生時代はスポーツが好きで、なかでも特にバトミントンを得意とし、入庁後は、特許庁の代表として通産省バトミントン大会で3回も優勝し、異彩をはなっていました。繊維のマージャン大会では2度に亘って優勝しています。

仕事についても非常に勉強家で、分担している部門の研究は、特に深く掘り下げており、「嵩高性糸」論文等、貴重な調査資料を残して業界のために貢献しています。審査官補の教育についても、公報分冊は全部暗記して、常に業界における技術の発展の過程を身につけるよう厳しい指導をして居ったようです。彼は仕事以外の勉強としては、推理小説を短期間に何冊も読破し、最近では勤務時間外に約2時間通産省外国語研修所に通って英語の勉強をしており、精力的に活躍して居りました。

佐土君は若くてこの世を去りましたが、仕事、趣味、スポーツ、娯楽等あらゆる面で、直接、間接に佐土君を知る人が多からうと思います。この拙文を読んで下さる方々が、在りし日の佐土君を色々の方面から偲んで頂いて、後に残された長男明君、和子夫人のよき相談相手になって頂き度いと思います。なお御遺族の現住所は「千葉市矢作町825—6 平戸様方」に変わりました。

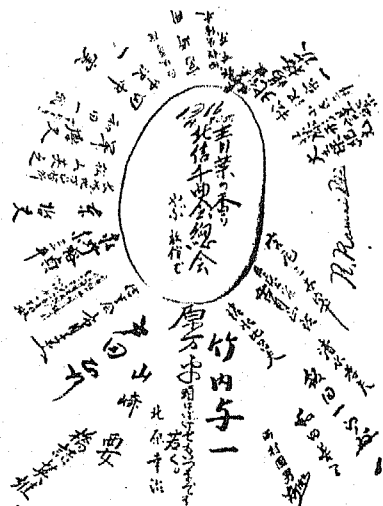
(41.1.28記)



## 支会だより

## 北信支会総会記

若葉が萌ゆる4月30日(土)午後2時から長野県市町やぶ旅館において恒例の北信支会総会を久びさに開催した。(幹事たいまんて2年越の総会となったことは会員各位に申し訳けなく思っている)本部よりは御多忙中のところ関先生の御来賓を賜り、会員は橋詰英雄大先輩(紡4)(前長野県出納長、現戸倉温泉白鳥園社長)をはじめ、県庁、その他官庁、学校、会社、自営などから30名の出席で盛況となったことに今回の出席者の顔ぶれは若い方々が多く、千曲会の安泰と発展を物語るものであろう。荒井猛支会長(糸12)が親せきの結婚式と重なり開会前にちょっとお顔を出されただけで総会に出席できなかったことは洵に残念でした。(但し多大なお酒をもって代席いただきました御礼申し上げます)



総会は先づ古川正喜副会長(蚕18)から支会の現況と将来への希望を含めたあいさつに続き議事に入り、関先生から母校の近況と本部総会の模様など詳細にうけたまわり会員一同は昨今の母校の様子に関心が深いだけに神妙な態で聞き入っていた。

会計報告承認のあと、例により中心議題となったのは会費納入の問題である、数多くの建設的な意見がかわされた、当支会は総勢160名を越える大陣容で、県庁40名、蚕業試験場15名の集団をはじめ、各方面に広く散在し活躍されている会員各位が多くなかなか連絡とりまとめに困難をしている。

母校の関先生からも地元支会ほど会費納入が良くないとお話しもあり、一同猛省し、各関係毎に班をつくり、幹事の

配置、数を増して本会および支会の発展に努力しようとかたく誓い合った次第である。

以上で議事が終了し、引き続いて懇親会に併せて橋詰英雄大先輩の長野県出納長退任後実業界に勇飛御発展された祝宴に入り、新副会長川合久午氏(紡19)(長野県企業局ガス課長)の開宴あいさつにはじまり一同乾杯、ぐるりと囲んだ配膳もよろしく、先輩各位からの御厚志多く正に豪華版である、酔もほろるで自己紹介に移りユーモアの中にも自信たっぷりなもののばかり、千曲会員なればこそと拘に心強く感じ入った次第である。

寄せ書の終る頃には宴も最高頂に達し膳を離れての円陣は校歌の合唱、学生時代そのままの光景をつくり出した各科代表のバップも実に見事なもので女中連もやんやのかっさい、時の過ぐるを知らず、一同万才、関先生の胸上げをもって宴は盛会裡に終了した。(宮尾記)

役員改選の結果次の諸氏に決定しました。

会長	荒井 猛	(糸12)
副会長	川合 久午	(紡19)
	西村 国男	(蚕29)
	宮堀 俊雄	(蚕17)
評議員	中村 正義	(紡19)
	永野 裕貞	(糸32)
	戸田 正行	(農1)
代議員	山崎 千春	(蚕30)
	水口 米雄	(蚕28)
	柄沢 富雄	(糸15)
	原 万平	(蚕29)
幹事長	清水比呂夫	(蚕28)
	(事務局＝県庁内)	

## 蚕28回生の

## 卒業25周年同級会

蚕28回の卒業は昭和16年の3月で今年でちょうど25周年にあたる。昭和16年といえば太平洋戦争がはじまる年で戦争の真只中に放り出されたわけだ。これまでに40人のうち11人死亡していった。その多くは戦死者である。生き残ったものも辛酸を嘗めつくしたようなものが多い。この悪運つよく生き残ったものどもが3月20日に上田市末広町の上田温泉で同級会を開いた。出席者は11名で、遠いところでは愛知の松田得治君、新潟の二宮正三君、東京の大井卓雄君が顔をみせてくれた。そのほか松本の井上貞二君、長野市の水口米雄君、清水比呂夫君、上田及び周辺の田中英一君、外村吉高君、金井勘治君、田中製炭平君、母校の松尾卓見であった。

懐しい顔々々々——25年前一別以来はじめての顔々々々もあり、見ちがえたりするものもあった。お互の健康を祝し合い、こ

れまでいかに乗り切ってきたかに話の花が咲いた。上田の街はずいぶん変わったわれわれが25年前に離別会をやった喜楽(馬場町)はもうない。母校もだいぶ変わった。今日出席できなかったクラスメートや旧恩師の話題にも事欠かなかった。午後4時ごろから酒宴にはいり、9時ごろまで愉快地話した。これを契機に3年に1度くらいは開いたらどうかということになり、わかれを惜しんで解散した。次に出席者の横顔をかく。

松田得治君——水戸農学校の教師をふり出しに教育界にはいり、復員後郷里の愛知県に移り、まもなく愛知県教育委員会指導主事になった。そのま10年以上たった今では教育委員会でも顔役(主任指導主事)で転出すれば校長は確実のようだ。「昔はキザで軽薄な男だったが、よくそんな仕事がつとまるものだ」とは酒宴での遠慮のないやりとり。愛知県高校入試で出題者として忙しいのによく来てくれた。上田温泉でとまり翌朝急行で帰庁のよし。



写真—前列左から松田・水口・二宮・田中製、後列左から田中英・松尾・外村・大井・金井・井上・清水。

二宮正三君——ソ連に5年、中国に6年の長い抑留生活をつづけ、昭和31年にしんがりて帰還した。老父二宮九二氏(蚕4)と弟妹をかかえ、いま郷里の新潟県五泉市の市役所に勤務している。実力はかくすべくなくいまや庁内で重きをなしているらしい。

大井卓雄君——台北帝大卒で、復員後米軍の水耕農場に勤務したことがあるがいまは北興化学工業KK中央研究所の除草剤研究室長。むかしながらの温顔で着々と業績をあげているらしい。

井上貞二君——卒業のときには佐渡の相川中学につとめた筈だが、復員後片倉にはいり、山形と福島の新種製造所を往復し、今年から普及団の業務課長として松本に移った。25年前と変わりなく元気一杯。

水口米雄君——新潟で移民関係の仕事をしていたが、発心して京都大学で農業経済学を学び、いまは長野県畜産課長、庁内では若手三羽鳥の一人といわれ部長になるのも近いとの評判。背丈は相変わらずだが、ビール樽のように太って貫録

がついて来た。仲々のやり手だが上田時代から結ばれた奥さんにはなかなか頭が上がないらしい。

清水比呂夫君——長野県消防課の課長補佐で、松代地震には頭がいたい由。京都大学の学生時代から病氣勝ちであったが、このごろはすっかり元気だ。今後の活躍が期待される。

田中英一君——柔道4段で母校が全国高工柔道大会3連覇のときの花形選手。復員後は家庭事情で村の中学校につとめた。いまは小諸市坂ノ上小学校の先生として誠実に教育に打ち込んでいる。

外村吉高君——剣道3段で腰のサーベルがよく似合う青年技術将校だったが、文学好きで夜も日もあけなかったことは知る人ぞ知る。いまは青木中学校で英語を教えている。

金井勘治君——長い闘病生活を完全に克服し、いまは坂城町の日精樹脂KKの経理責任者として大活躍をしている。家を上田市踏入に新築した。

田中袈裟平君——復員後は長いあいだ篠ノ井高校につとめたが、昨年から丸子実業高校に転じた。教師が板につき、なかなか重きをなしているらしい。家を繊維学部のすぐ南に構え、金井君とは家族ぐるみの交際をしているとのこと。

松尾卓見——京都に4年半いて、終戦の昭和20年秋に母校に戻って来た。養蚕学科は昭和36年から繊維農学科に変わった。これからどのような進路をとるべきか悩んでいる乗組員の一人。(松尾記)

## 母 校 ニ ュ ー ス

大平敏彦教授 停年退官  
岩崎振一郎教授

繊維工業化学科大平敏彦教授は3月31日停年退官された。大平教授は繊維工業化学科創設と共に赴任26年間にわたり研究と教育に母校の発展に貢献された。退官後信州大学名誉教授に任ぜられた。なお上田市国分に新築居住される。

繊維化学工学科岩崎振一郎教授は同学科新設とともに昭和38年赴任同学科の基礎づくりに研究教育に尽くされた3月31日停年退官し郷里の京都市上京区釜座下立売南入口に住居される。両先生のご健勝をお祈り申し上げます。

### 教養統合に伴う教官の移動

4月1日信州大学教養学部の発足に伴って教官の移動が行われた。信州大学教養学部へ教授羽島下二夫、教授中村六男、教授天白一馬、教授池尾健一、助教授山崎嘗録、助教授四方昭吾、助教授田中博正、助教授清水健美、助教授高橋規矩、講師飯島俊明、講師鈴木富士雄、講師一之瀬匡典、講師阿久津伊平、信州大学理学部へ教授横井政時、助教授

驚坂修二、助教授小柴善一郎。

### 各 学 科 主 任 決 定

41年度各学科主任は選挙の結果次のとおり決定した。

繊維農学科	山口定次郎教授
繊維工学科	野口新太郎 "
繊維工業化学科	会田 源作 "
繊維機械学科	一志 淑夫 "
繊維化学工学科	隅田隆太郎 "

### 農場長に町田博助教授併任

附属農場長は選挙の結果町田博助教授が当選農場長を併任された。なお任期は昭和43年3月31日迄2年である。

### 繊維学部将来計画委員会

#### 委員長に野口教授再選さる

4月19日母校将来計画委員会において選挙の結果同委員長に野口新太郎教授が再選された。

### 教 職 員 組 合 総 会

4月23日上田温泉において教職員組合総会を開催し昭和40年度決算昭和41年度予算を承認、更に役員改選の結果執行委員長に松尾卓見教授、副委員長に内田貞夫助教授を選出、各部役員は総務部長佐納良樹、厚生部長清水源太郎、文化部長武井隆三、婦人部長山辺豊子、会計部長児玉寛の各氏に決定した。

### 関博夫助教授(蚕23回)

#### 蚕学賞を受賞さる

本学部助教授関博夫博士は、去る4月3日第36回日本蚕学会大会において、米ある蚕学賞を拝授された。

今回の受賞の運びとなったのは、博士の多年にわたる「桑科植物の細胞学的研究」についてであり、その研究成果は高く評価されている。

成果の要は受賞講演として公開され(1)本邦における桑属の自然倍数体、(2)三倍性桑樹の自然発生機構、(3)人為倍数性品種の育成、(4)その他の桑科植物の細胞学的研究等多彩な内容は多くの聴衆者に深い感銘を与えた。

ちなみに同助教授は昨年5月3日、昭和40年度長野県産業自治等に関する功労者のなかから、学術功労者(倍数性桑の育成ならびに品種改良)として栄与ある知事賞を受けられており、今回重ねての受賞に深く敬意を表するものである。

同助教授の健康と今後の活躍を祈念して止まない。

### 沢路雅夫助教授の受賞

NHKと発明協会共催の全国発明工夫コンクールにおいて繊維工学科繊維物理学研究室の沢路雅夫助教授は磁気記録式顕微光沢計の発明によって光栄ある特賞を受賞された。表彰式は3月15日日本橋三越において行われ、特賞受賞者は沢路助教授外5名であった。

## 本 会 記 事

### 理 事 会 開 催

3月19日理事会開催、出席は山口定次郎理事長、蒲生俊興、倉沢美穂、野口新太郎の各氏顧問、猪坂直一相談役、井沢喜三、香山清和、杉山一雄、田口玲、竹内善吾、和田晋、田口亮平、町田博、関博夫、竹田寛、松尾卓見、小林尚一、白井美明、石川博、北条舒正、坂口育三、遠藤恒久、青沼茂、三石賢の各氏理事出席して第26回定期総会において理事会に一任された次の事項について山口理事長議長として審議した。

(1)入会金を1万円とし終身会費とすることについて

関係大学同窓会の入会会費の状況を資料として審議した。入会金1万円を終身会費として一度に徴収することは望ましいが、本年から教養学部が発足したので他学部との関係上難点もあるので今後更に研究する。従って入会金、会費は昨秋総会決定のとおり入会金は1,000円、会費毎額500円である。

(2)母校火災復興資金の使途について

学生食堂を建設する等の学部の具体的計画の進捗によって善処することに決定した。なお意見としてこの資金の使途については千曲会は自主的に考えても良いのではないかの発言もあったが、なおよく研究することに決定。

(3)総会決議事項を学部長に改めて要望することについて

蚕糸教育の改善の問題について千曲会総会の決議事項を改めて学部長に要望する、なおこのさいの人員については理事長に一任する。

(4)会員の表彰について

国家的の功労表彰については適当な会員があれば県、市等に推薦してもよい。千曲会に功勞のあった会員の表彰は毎年行う必要はない、50周年とか70周年等記念行事のさい行うこと。

(5)千曲会のあり方と役員構成について

今秋の総会で役員改選を行うことになっているからそれまでに良く研究する。

### 小林運美氏を囲んで研究会

小林運美副理事長(東京支会長)は昨秋メキシコで開催の国際ボーイスカウト大会から帰国後、久々にて3月29日来会したので、この機会に学内役員との研究会を催した。小林東京支会長は過去のことはいわない、すべて母校愛の発露で他意はない。ただ同窓生の意見をまちがいに学校に反影するようにしたい。今日は特に蚕糸教育の改善問題について意見を聞かせてもらいたいということで出席役員から熱心活発な意見の交換があり盛会であった。

## 昭和41年度

## 入学許可学生氏名

## 繊維農学科 35名

氏 名	県	出身校
浅野 裕三	愛知	明 和 高
石坂 征洋	長野	上 田
伊藤 順	愛知	一 宮
伊藤 愷	三重	四日市
宇敷 義道	長野	長 野
奥田 稔	滋賀	瀬田工業
小田切 裕	長野	上 田
川内 郁緒	長野	須 坂
北野 道雄	愛知	千 種
北村 佳文	長野	屋 代
桑名 好治	大阪	富田林
小柳 敦美	長野	長 野
杉山 整	岐阜	岐阜北
武田 尚良	長野	須 坂
玉井 市憲	長野	長 野
土屋 仁士	長野	軽井沢
林文 俊	長野	上 田
松井 正通	長野	上田千曲
宮城 勉	徳島	富岡西
望月 澄子	長野	染谷丘
安田 利枝	鳥取	米子東
山口 常男	広島	廿日市
山下 徹志	鹿児島	鶴丸
山下 吉樹	愛知	半 田
吉沢 健三	長野	長 野

## 紡織工学科 45名

氏 名	県	出身校
芥田 博司	兵庫	姫路西
綾女 幸夫	鳥取	倉吉東
石原 奎二	愛知	松 蔭
伊藤 武平	半 田	
碓井 憲一	長野	野沢北
内田 吉一	東京	王子工業
梅原 利達	日本橋	
大山 芳男	東京	江戸川
岡田 浩三	長野	上 田
岡田 実	島根	出 雲
岡村 昌寿	長野	野沢北
小栗 尚之	愛知	岡 崎
加藤 友治	岐阜	多治見北
川上 雅男	兵庫	赤 穂
木下 晴夫	長野	県ヶ丘
工藤 善昭	上 田	
桑津昇夫	兵庫	西 宮
小林 淳人	長野	野沢北
小山 伸悟	岡山	林 野
権田 雅彦	愛知	横須賀
斎藤 安雄	埼玉	不動岡

坂元 竜三	鹿児島	鹿屋
島用 彰雄	長野	屋 代
清水 求	上 田	
杉田 修		
杉山 実	神奈川	横須賀
高部 正章	滋賀	高 島
田爪 正和	熊本	人 吉
田中 正一	長野	屋 代
田中 道男	愛知	名古屋西
塚田 益裕	長野	上 田
寺田 舜	静岡	磐田南
中条 孝夫	長野	県ヶ丘
中森 義和	三重	上 野
永田 節雄	愛知	岡 崎
西川 宏	香川	丸 亀
原 伸治	三重	桑 名
原田 恒雄	長野	長 野
平井 敏郎	兵庫	姫路南
藤沢 光彦	長野	上 田
星野 伸男		
八重田 修		飯山北
山本 正宏	静岡	静 岡
吉川 範文	兵庫	姫路西
渡辺 真弓	石川	大聖寺

## 繊維工業化学科 43名

氏 名	県	出身校
青江 輝雄	岡山	岡山工業
荒木 聡司	熊本	熊本マリ スト学園
荒木 茂樹	長野	上 田
安保 正一	兵庫	姫路工業
池内 寛幸	長野	上 田
伊藤恵美子		蟻ヶ崎
岩谷ふみえ	新潟	糸魚川
太田 清久	長野	県ヶ丘
沖 泰	京都	山 城
掛川 弥生	長野	染谷丘
岸部 正行	兵庫	夢野台
衣笠 貞夫		姫路東
久保 誠六	長野	屋 代
桜井 重信		野沢北
桜井美喜子		染谷丘
沢沢 賢治		長野工業
島田 進		上 田
清水 和明	愛知	名古屋西
白井 文晴	静岡	沼津東
白勢 範	新潟	新発田
鈴木 正稔	愛知	半 田
住 好一	大阪	上 宮
竹内 竹子	長野	長野西
田村 康一	新潟	長 岡

中林 喬	大阪	池 田
中山 朋子	長野	諏訪二葉
信吉 修	奈良	一 条
長谷川純子	長野	染谷丘
早川 郁男	愛知	横須賀
馬場 康子	長野	染谷丘
伴 あき子		長野西
平井 利博	岡山	新 見
平松 勝	愛知	名古屋西
福田 稔	大阪	北 野
藤川 敏博	兵庫	西 宮
松井 義夫	愛知	昭 和
南出 直樹	兵庫	西宮東
宮田 利明	大阪	泉 陽
矢野 初美		愛媛八幡浜
湯通堂千文	兵庫	神 戸
吉田 繁	愛知	半 田
呼子 嘉博	大阪	上 宮
渡辺 正敏	愛知	名古屋西

## 繊維機械学科 44名

氏 名	県	出身校
相沢 隆	三重	四日市
青山 尚平	愛知	岡 崎
赤塚日出夫	三重	四日市
朝日 一裕	大阪	大手前
新井 哲夫	長野	松本深志
一志 定良		
井出 泰生		野沢北
岡本 定吾	奈良	郡 山
小川 稔	富山	入 善
小根山 稔	長野	須 坂
笠井 義光		屋 代
梶浦 勇	愛知	向 陽
春日 正策	長野	松本工業
春日 譲	東京	両 国
勝又 惣一	静岡	沼津東
上水流嘉男	大阪	八 尾
北城 厚	長野	須 坂
黒岩 平和		
小泉 伸生		長 野
小林 富一		屋 代
小堀 朋衛	東京	成 城
近藤 健一	兵庫	姫路東
坂井 隆文	奈良	畝 傍
佐藤 陸夫	長野	野沢北
志田 彰	三重	四日市工
柴田 光義	愛知	岡崎北
島田十三男	長野	上田千曲
城山 敏		県ヶ丘
多田 誠	兵庫	福 崎
堤 弘守	愛知	時習館

中沢 哲夫	長野	上 田
永井 章夫		長 野
長尾 勲	京都	洛陽工業
羽田 孝雄	長野	蓼 科
藤岡 良一	兵庫	姫路東
星野 光雄	埼玉	熊 谷
松井 勝彦	長野	上 田
松本 光正	愛知	豊橋東
溝端 恒	長野	屋 代
宮口 勝彦	千葉	佐 原
森 久芳	石川	金沢二水
横見 和郎	岡山	高 梁
吉越 健男	長野	須 坂
吉村 健二	三重	松阪工業

## 繊維化学工学科 35名

氏 名	県	出身校
阿部 一雄	長野	野沢北
岩野 一之	三重	上 野
内山 昇	長野	資格検定
太田 知明	愛知	豊田西
大谷ミサコ	神奈川	横須賀
岡田 康男	福井	武 生
掛端 勝行	青森	八 戸
勝俣 春美	静岡	沼津東
金子 三郎	新潟	高 田
北原 一郎	長野	上 田
香沢さち子	秋田	湯 沢
小山 二郎	長野	須坂西
須坂 行徳		長 野
春原 秀基		上 田
滝本 浩邑	和歌山	橋本
種田 修二	高知	追手前
寺田惣一郎	静岡	焼津中央
富田 耕二	大阪	池 田
富田 友一	愛知	東 海
中川 一貞	富山	砺 波
永井 光生	京都	日吉ヶ丘
西沢 憲夫	長野	長 野
西沢 秀雄	大阪	清水谷
野島 厚雄	石川	金沢泉丘
原 幹夫	兵庫	神 戸
日向野 光	大阪	住 吉
藤井 明彦	東京	墨田川
堀内 剛	長野	屋 代
前島 芳弘		須 坂
松浦喜多男	愛知	中 村
松倉 実	長野	上 田
丸山 恵子		長野西
宮本 昇	千葉	安 房
森岡 幹雄	三重	名 張
山下 伸二	岡山	津 山

## 会 員 動 静

浅沼袈裟男 紡 13 愛 知 三共毛織KK (愛知県中島郡祖父江町)  
永井 千治 紡 17 安 筑 長野県繊維工業試験場長 (松本市)  
虫明 聡夫 紡 20 山 陽 岡山県工業試験場 (岡山市伊福町4-3-18)  
小松市太郎 学紡10 愛 知 ダイキン工業KK名古屋支店 (住) 名古屋市千種区下方町3丁目  
熊田喜代志 化 2 岐 阜 熊田技術管理相談所 (岐阜市金園町4-5日本経営大学内)  
岩崎 俊男 化 2 山 陽 グンゼメリヤス久世工場長 (岡山県真庭郡久世町)  
浪方 昌近 化 5 東 京 日本レイヨンKK (東京都中

央区八重洲北口会館) (住) 千葉県松戸市日暮字中柏葉台660日レ松戸第2社宅  
高橋 重造 化 9 高 水 長野県下高井農林高等学校 (長野県下高井郡木島平村)  
近藤 義和 学化1 山 陽 広島女子大学 (助教授) 広島市宇品町710 (住) 広島市翠町1490の15  
片桐 康 学化4 愛 知 東洋レーヨンKK愛知工場製造部紡糸課 (名古屋市西区堀越町乗越238 (住) 名古屋市西区篠塚町1950東レ篠塚社宅58  
小野沢信義 学化6 近 畿 東洋レーヨンKK生産管理部 (大阪市北区中立島3-5) (住) 西宮市上霞原町5-9  
滝本 寿照 学化11 山 陽 倉敷レイヨンKK倉敷工場 (倉敷市酒津)

## 大 平 先 生 退 職 記 念 募 金

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて大平敏彦先生には昭和41年3月末日をもって信州大学教授を退官されました。先生は大正15年東京帝国大学農芸化学科を卒業後同教室で研究を続けられ、昭和15年4月繊維化学の創立と同時に上田蚕糸専門学校教授として着任され、以来今日まで26年間にわたり学生の教育指導に当られ、ことに創立当時の繊維化学科の充実、発展に専心努力を重ねられました。

また先生は長年繊維化学科の学科主任は勿論、図書館長、一般教育委員として学部、大学全体にわたってその発展に貢献されました。昭和36年不幸にして病をえましたが回復するや医者や同僚の制止もきかず教壇に立たれ、退官の直前まで熱意をもって学生の教育に全力を尽されたことは先生の御誠実さと人柄をそのまましめすものと思われまふ。

なお先生は信州大学名誉教授として引続き御指導賜わる予定であります。このたび御退官にあたり知友門下生らの有志相寄り先生の多年のご功績を記念するとともに感謝の微意を表わすため左記のような記念行事を計画致しました。諸事ご多端の折からまことに恐縮に存じますが、この趣旨にご賛同下さいまして何分のご協力賜りますようお願い申し上げます。

大平敏彦教授退官記念会委員長・繊維工業化学科主任 会 田 源 作

記

1. 記念事業 記念品の贈呈 (実行委員に御一任下さい)  
1. 締 切 昭和41年8月末日

1. 融出金額 1口 500円以上  
1. 払込方法 なるべく千曲会振替用紙をご利用ください。

信大教科書  
自然科学書

工学書協会特約店  
株式会社 西 沢 書 店  
上田原町 TEL 0024

## 編 集 室 よ り

深緑の候となり会員皆様いよいよご健勝ご活躍のことと存じます。千曲会報第161号をお届けいたします。本号は柳沢新学部長より大学院学生を迎えてのご寄稿、南氷洋上から斎藤義臣監督官のお便り等いただきました。

学窓から社会にスタートした新入会員諸兄は小泉清明前学部長の卒業生を送る言葉を、大学卒業技術者の処世の指針とされ不断の研究により将来の大成をご期待致します。

編集委員 小林 尚一、竹田 寛、石川 博  
松沢 秀二、武井 隆三、小笠原真二  
白井 要範。

海外に飛躍する

## 北野建設株式会社

取締役社長 北 野 次 登

長野市県町524  
東京都中央区銀座1の5北野ビル  
大阪市北区堂島浜通り1の25新大阪ビル  
松本・高田・ジャカルタ

特許・実用新案・意匠・商標  
出願・訴訟・鑑定

## 浜 特 許 事 務 所

東京都港区新橋1の15の4  
堤 第一ビル4階  
東京 (591) 0764・0765  
弁 理 士 浜 香 三  
弁 護 士 中 猪 之 助  
千曲会員 福 島 鋼 治 郎